

## 疼痛を伴う絞扼性神経障害

坪川 直人

新潟手の外科研究所

絞扼性神経障害の症状として、**Dysesthesia**、**Paresthesia**、(異常知覚)、**Hypesthesia**(感覚鈍麻)などの知覚障害と運動麻痺、筋委縮などが認められる。しかし絞扼性疾患の重要な症状として神経因性疼痛がある。痛覚過敏 **hyperalgesia**、アロデニアなどの神経障害性疼痛は神経阻血、浮腫、それに伴う神経内圧の上昇により生じると考えられているが、その詳細は未だ不明である。絞扼性神経障害では痛みがあるとの認識がなく頸椎疾患として治療されている場合がある。神経障害性疼痛を引き起こす絞扼性神経障害の臨床症状、鑑別診断、治療について、橈骨神経:肘-橈骨神経管症候群、後骨間神経麻痺、手関節-Wartenburg 症候群、尺骨神経:肘-肘部管症候群、手関節-Guyon 管症候群、正中神経:肘-回内筋症候群、前骨間筋麻痺、手関節-手根管症候群について、疼痛症例の治療の実際について興味深い症例を提示して説明する。